ニンカン・ネット通信
ニンカン・ネット
Vol. 8
2009. 2 .14
【発行】ニンカン・ネット　〒466-0833　名古屋市昭和区隼人町19　南山短期大学内　Fax（052）836-6543（南翔会事務局）

揚子江のフーさん

他界した私の夫は殆どいつも紙切れと鉛筆を自分のそばに置いていたが、おそらく統計学が専門だった彼の頭の中は数式と数字でいっぱいだったのだろう。彼が息を引き取った後、彼のベッドサイドテーブルに手がつけられないままの病院食とその日のメニューが印刷された紙片があり、その紙片の裏には亡夫の弱くなった筆跡で数式が残されていた。その紙片は今も我が家に大切に残されている。その夫からみれば私は「能」のない平凡な人間だったと思う。彼が私の能力として認めてくれていた数少ないものの一つに、意味ある「本」を識別する「目」だったように思う。自分の専門領域である社会学だけでなく、さまざまな領域で「コレ」と思う本がいつも私の目に留まり、時にはそれらの本を読みたくてたまらなくなることがしばしばある困った能力と言うことができるだろう。

この本に対する私の興味は子どもの頃、新聞の一面下部に印刷された新刊書の広告にいつも目を通していた私の母の姿へとつながっている。母は「この本、面白そうだから丸善に頼んでみましょう」といいながら、その新聞記事を切り取っていた。そういった本の一冊にウエンライト著『揚子江のフーさん』（実業之日本社）がある。

この間、三男が偶然「僕の所にこんな本があった」といって、ページが茶色に変色したその本を持ってきてくれたのだが、今、テレビでよく見る上海とは全く違う揚子江の川べりの「とにかく人が多く集まった町」の上海で、実母とほそぼそと暮らしながら彫金師の徒弟として使い走りをしているフーさんの機知にあふれる生活を描いた、文字通り、「息も継がせず」読み進む面白い物語を今も忘れることが出来ない。特に、主人のお使いで揚子江上流の重慶に出かけ、生まれて初めて雪を見て、その雪を上海に持ち帰り、「触れば福が来るよ」と街角で叫んで、小遣いを稼ぐ逸話に小学生の私は胸を躍らせた。今でも思い出すと胸がワクワクする。

そのような訳で私はまた『揚子江のフーさん』のような本に出会わないかと、齢を重ねた今も本屋さんでの「立ち読み大好き」、「新刊書の広告大好き」、「日曜日の新刊書紹介欄大好き」のおばあさんでいる。

伊藤　雅子

ニンカン・ネット企画

ミニ講座

Vol. 8

今年度も、春（５月17日・６月21日）秋（10月４日）と３回の講座を開催しました。その内容をご紹介します。

春のミニ講座 2008年5月17日

「あなたはどんな性格？」
～自分と向き合う～

【講　師】星野　欣生先生

毎回人間関係づくりにおける、様々なテーマについて体験学習をおこなっている星野先生の講座。

今回はわかっているようでわかっていない、掴んでいるようで掴めていない自分自身―自分が自分をどんなふうにみているのかをあらためて考える講座です。

自分とは何か？と考えたとき、大まかに以下のような側面が考えられます。

①属性・・・肩書き・所属　（国籍、性別、出身地など）
②性格・・・気質＝先天的　（変化しないもの）
　態度・・・行動形式＝後天的（環境・役割によって変化するもの）
③思考・・・価値観
④趣味
⑤欲求
⑥現時点での状態　（精神面・身体面）

これらの側面から自分を見つめ、要素を洗い出すだけでなく、要素同士がどのように関係し合っているかを一目でわかるようにしたものが「私マップ」です。

今回は性格を中心に考えます。

まず２枚の紙が配られます。

・Ａ３の用紙に書かれた二重円。（内円は紙の中央に半径３㎝程度。それが私自身を表す。名前や愛称など、わかるように書き込む。その円を中心にして、外側にもうひとつ紙いっぱいに収まる程度の円。）
・「私マップ用語集」
　明るい、慎重、八方美人、短気…など特徴を表すことばが30語ほど書かれている。思い当たるもので書かれていないものは自由に追加できる。

①用語集から大きさ・カタチは自由に一語づつ切り取っていく。手でちぎってもＯＫ。
②マップの上に切り取ったことばを置いていく。
・自分にとってあてはまることばは内円の近い位置に。あてはまらないものは離して…というふうに置いていく。ことば同士の関係性（連動・反発）も考慮する。
・必ず用語集にあることばすべてを使う。
③すべての語句を置いてみて追加することばがないかを再度検討する。位置や場所が確定したら、ことばたちをのりづけしていく。
④ことば同士を色分けしたり、線でつないだりして要素の分類や矢印を書き込んで、関係性を明らかにしていく。
⑤完成したものを自分自身で観察したあと、仲間同士で見せ合いながらフィードバック。

自分マップのワークは、あらかじめ与えられたことばを用いることによって、自身の思い込みから離れ、客観的に自分の姿を捉えることができます。用語集の中には自分にとって嫌なことばもありますが、それらも他の要素との関係の中で見れば、自分を形作る要素のひとつとして捉えることができます。好き・嫌い、良し悪しとは関係のない価値観で見ることができるので、ありのままの自分自身の受容につながります。その時点での、ありのままの自分を理解することで、自分が周囲に与える影響や、他者への対応を知ることができます。

日常の中で人間関係を営む際には、どうしても他者へ目が向きがちになります。他者へ向ける目を自分にも向けてみることで、より深くより豊かな人間関係を身近に生み出していきたいです。

参加者の『ふりかえり』

・20年ぶりくらいに南短の門をくぐりました。学生時代のことなど何も覚えていないだろうと思っていましたが、意外に知識として残っていてうれしかった。学生時代は意識しないで与えられていたことを今回はみずから求めてやってきたという意識の違いでしょうか学生時代よりはっきりと講義内容をとらえられた様に思います。（１期）
・いつもはグループやペアでの実習だったが、今日は個人の内面をさぐっていくもので新鮮でした。毎回思うのですが、星野先生は本当にむずかしい内容をわかりやすく教えてくださり、ありがたいです。（英14期）
・初めてのミニ講座で、南短へ来たのは十何年振りでした。現在、引越し等で環境が変わり、あらためて現時点での自分と向き合うきっかけとなりました。女性は一生のうちで、数々の変化に対応しないといけないので、そのためにも有効だと思いました。（16期）

春のミニ講座 2008年6月21日

「メッセンジャー・ライン」

【講　師】グラバア俊子先生

梅雨に入り、朝から蒸し暑く雨模様。№11教室を囲む木々の緑が、ひときわ濃く目に映ります。あいにくのお天気だからなのか、参加者の集まりがいまひとつ。

今日の講座は実習がメインになるので、先に始めてしまうわけにもいかず、グラバア先生のフリートーク？で幕を開けました。

先生の小原のお住まいの様子や、現在の大学の様子…期が異なるものの、それぞれが自分達の学生の頃を思い、束の間自然と和やかな場作りタイムとなりました。

「メッセンジャー・ライン」とは大まかに言えば、誰もが知っている「伝言ゲーム」のこと。参加者全員が揃ったところで、誕生月毎にひとグループ５人になるようにグループ分け。同じグループの人が横一列になるように座っていきます。各グループから各回毎に交代でひとりづつ、衝立の向こうにある伝言メッセージを聞きに行き、順送りに伝えていきます。

メッセージは全部で５問。それぞれに伝え方の条件も異なります。

①指定された短い文章を、１回限りで伝えていく。
②指定の文章を、２回繰り返して伝えていく。
①、②とも、聞き手は質問や聞き返しはできません。
③雑誌掲載の指定された写真の内容を、２つの指定語句を用いて伝えていく。
聞き手は内容について、２回質問をすることができる。
④指定された物を見て、それが何で、それを見たときの気持ちを１分使って伝える。
聞き手は、表情やしぐさのみで相手に反応を返すことができる。
⑤本の指定されたページの内容を伝える。聞き手と１分間自由に話し合うことができる。

回を追うごとに、単純な語句から文章、写真、物と伝える内容は複雑になっていき、また伝え方の条件もそれぞれ違う、という特殊な伝言ゲームです。５人目のメンバーに伝わった内容から、メッセージの伝わり方の特徴を検証し、そこからその時の伝え方の条件から派生する課題を拾い出していきます。それらの課題を、実際の会話に置き換えて考えていくと、自分の普段のコミュニケーションの姿が浮かんできます。普段の会話における自分の習慣は、相手や場合によっては内容を歪め、間違ったメッセージを相手に伝えてしまったり、また大きな誤解を招く可能性を孕んでいます。

・「質問や確認をすることなく、勝手にわかったつもりになってしまう。」
・「相手も自分と同じ解釈でいることが当たり前だと思っている。」
・「一部分だけを見聞きして、それがすべてだと判断してしまう。」

これらのことに気づかないまま、私たちは普段の会話の中で、「伝えたつもり」「理解したつもり」のやりとりをしていないでしょうか？

情報を伝えるということは、発信する自分と聞き手となる相手とのやりとりです。やりとりを担うことばが、互いの気持ちや感情を含むことなく、単に受け流されているものにすぎないとき、その情報の正確さは危ういものとなります。単に口と耳のみの使用にとどまらず、五感を開き、想像力をフルに巡らせることで、互いに届くことばが生まれます。

真のコミュニケーションとはそういうものではないでしょうか。

参加者の『ふりかえり』

・グラバア先生の講座というと身体を動かすイメージでしたが、今回はいっぱい頭を使いました。いかに自分が入ってくる情報を思い込みによって解釈しているかに気づきました。『変だな』と思っても『きっとこうだろう』と思い込んで、確認はなかなかできない。そこで一歩踏みとどまれば正しく理解することができるんですね。わかちあいの時の先生の「だから具体的にどうするの」の突っ込みに頭を抱えました。漠然と「こうだ！」では次へのステップアップにつながらないんですね。絶対に学生時代に習ったはずの事‥思い出せてよかったです。（11期）

・久しぶりに緊張しつつ話したり聞いたりしました。だんだん頭の回転が鈍くなっている今日この頃、ちょっとした脳トレになったような気がします。（6期）

・グラバア先生の声、いつもの感じでやさしくつつまれるようでここち良かったです。私の日頃のくせが発見できてよかった！やっぱり体験と、仲間とのわかちあいは大切ですね。（20期）

・目から取り込んだ情報を、いかに整理して伝えていくか。表面だけにとらわれて、本質を見抜いていないと、伝達がむずかしいと感じました。人それぞれ個性があって、思い・考えは違うものだと思いますが、少しでも多く相手を受け入れて、フィードバックを返す大切さを感じました。（12期）

秋のミニ講座 2008年10月4日

「カガミになる」

～フィードバックは成長の鏡～

【講　師】星野　欣生先生

ミニ講座も今年で5年です。10回シリーズの今回は９回になります。

今回は、「フィードバック」がテーマですが、「チーム・ラリー」という問題解決の実習をしながら、グループ活動の中でのメンバーの行動の仕方についてフィードバックしていこうと思います。

ところで、人関ではフィードバックという言葉をよく使いましたが、イメージとしてどんな感じで頭に残っていますか？　どちらかというと、ネガティブな、あまり良くないイメージで捉えている人も多いのではないでしょうか。「自己開発セミナー」などでは、良い意味では使わないで、非難や攻撃の意味として使っているようです。しかし、ここ最近強く思うのは、普段の人間関係の中で、自分の鏡に映った相手の姿を、良い悪いは言わずそのまま相手に返すというフィードバックの考え方を上手に使うことによって、人間関係のあり方を変えることができるということです。フィードバックはニンカントレーニング（体験学習）の特別な用語ではなくコミュニケーションの大事な方法なのです。

ここで、問題解決の実習「チーム・ラリー」のエクササイズ(グループ活動)をして、メンバー相互にフィードバックをします。

「チーム・ラリー」の実習で、自分の行動がメンバーにどのように映ったかということ、言い換えれば、自分の目に見えたことを、そのまま相手に返すというフィードバックをしました。そうすることで、相手の成長を促進し、お互いの関係の促進もできます。そして、チームの活性化を促すことにもなります。フィードバックは相手との大事な関わり方の一つの方法です。

その方法の留意点として相手の良い悪いは言わないで、相手が受け入れやすいように配慮して、ある時のある状況の中でという制限つきで、見えたことだけではなくて私に与えた影響（気持ち）なども伝えることが大事です。第１人称で「私は…」メッセージで伝えると相手は嬉しいものです。

お互いに「鏡」になって、自由に言い合える友人を沢山持つことが大事です。

（実習）

①６人を１グループとする。

②先生の情報紙を基に「チーム・ラリー」の所要時間と経路を出す

③グループメンバーの働きを自転車の部品（例えばハンドル、ブレーキなど）に例えてフィードバックする。

参加者の『ふりかえり』

・卒業後初めて講座に参加させて頂きました。実習を通して、家事、仕事等の日常とは違う時間をすごすことができました。また、教室の窓から見る光景は学生時代とは変わらないまま時を経て、変わるもの、変わらないものをあらためて見つめ直す時間にもなりました。（10期）

・どんなグループにも必ず構成するメンバーの中で、自分の持ち味を生かした役割があると思います。与えられた課題によって役割がうまく機能し合うことがよい結果を生むことにつながる、ということが良く分かりました。家庭でも職場でも、組織に課されたテーマがあるとき、積極的に取組み、メンバー同士のフィードバックが円滑にできると、各々のモチベーションが上がると思いました。（16期）

・大変緊張感があり、しかし、楽しく充実した時間を過ごすことができました。この講座では皆が受け入れてくれる姿勢があり、安心して発言できます。（人関卒業生のふところの深さですか？）（１期）

・人数が少なくて残念でした。課題達成の為にチームが協力する人関独特の雰囲気が好きです。フィードバックの時の、自分と他人のチェックの違いがおもしろかったです。もっとフィードバックを実生活にいかせたら人間関係もうまくいくのではないかと思います。卒業生以外の友人も誘えたらいいなと思います。（16期）

・課題の達成に気をとられ、フィードバックするためのデータを集める余裕がありませんでした。自分自身の日頃の課題があらわになり、少し落ち込んでしまいました。（12期）

・ニンカンのキーワードだった「フィードバック」。あんなに毎日きいていた言葉をあらためて星野先生の口から今きくと自分が日常で活かしきれていないことをつくづく感じます。「私がそう思ったもん」という思いが態度ににじみ出ていなかったか、「そんなふうに思えたから伝えることがフィードバック」だと思い込んでないか、相手が受け入れられる状態か、そうなれるためには関係をどう築くか…あらためて自分に問い直しながら、これからすごしてみたいと思います。ちょっとこわいけど…やってみようと思えます。（19期）

ニンカン・ネット奨学助成活動　～学ぶあなたを応援します～

「ニンカン・ネット」では、旧南山短期大学人間関係科の核となっている「体験学習」及びその応用を継続学習・研究・普及しようとする人間関係科卒業生を援助します。

《奨学コース》　講座受講料の50%（限度額5万円）、大学等への入学・編入費用のうち5万円を補助します。

◆申し込み受付期間　　第10回（春期4月～8月）　2009年3月末受付締め切り
（春期・秋期の年二回）　　第11回（秋期9月～3月）　2009年8月末受付締め切り

《一般助成コース》　人間関係科卒業生を対象にした同期会一回につき1万円を補助します。
こちらの申請は随時受け付けています。

☆申し込み方法、選考方法など詳しくはお問い合わせください。またHPでも詳細をご覧になれます。
問い合わせ先　E-mail:jyosei3@ninkan-net.jp　（HP内に問い合わせ用フォームがあります。）

「ニンカン・ネット」奨学助成を受けられた方々

5期　園木紀子

南山大学人間関係センター　グループ・プロセス応用講座　受講

ニンカン・ネットの2008年度の助成をいただき、「グループ・プロセス応用講座」に参加しました。この講座全体のねらいは「グループや他者に与えている自分の影響に気づく」、「グループの中の人間関係（グループプロセス）を捉える感受性を高める」、「グループやメンバーの成長に働きかける視点やスキルを養う」というものでした。これは、主にNPOでの活動が多くなっている私にとっては、そのままズバリ「わたしのねらい」となり充実した３日間でした。そして、グループで、チームで活動するにはメンバー、私自身が共に学べる関係であろうとすることだと改めて思いました。今、その成長に向けて壁にぶつかりながらも日々あきらめず進んでいる真っ最中です。感謝。

9期　水野菊代

南山大学人間関係センター　人間関係講座　受講

グラバア先生の「人間関係講座」を９月から受講しています。？十年前にニンカンで学んだはずの事がほとんど記憶になくて、毎回新鮮な気持ちで取り組んでいます。講座で出会った方々は、みなさんがこの講座を前向きに受講されていて、とても刺激を受けています。

とにかく、毎回「楽しい！！」です。10回の講座があっという間に終わってしまいそうです。少しだけれど私の何かが変わりそうな予感がしています。

10期　水野節子

GCDF-Japan　キャリア・カウンセラー・プログラム　受講

ニンカンネットの助成金をいただき、心から感謝しています。この講座は、米国で始まった個人のキャリア発達・開発を支援する実務家レベルのカリキュラムに則っており、さまざまなキャリア理論やキャリア・アセスメントの活用法、労働市場の動向、さらにはヘルピング（キャリア・カウンセリング）の理論と実技などによって構成されています。GCDFとはGlobal Career Development Facilitatorの略称で、日本語に訳すと「全世界でのキャリア発達・開発のファシリテーター」ということになります。名前の通り、米国や日本以外の各国でもこの講座は開講されており、「ファシリテーター」というだけあって、「グループ・ダイナミクス」の理論やグループ・アクティビティのファシリテーションもプログラムに含まれています。今年3月、私は「関係性から学ぶキャリア開発」というテーマの修論を書いて、南山大大学院の教育ファシリテーション専攻を修了したので、その経験を実務に活かしたいと思い、受講を決めました。

この講座を受講すると、GCDF-Japanの資格認定試験を受ける資格が得られます。日本でもキャリア・カウンセラーの資格は複数ありますが、GCDFは厚生労働省指定のキャリア・コンサルタント資格になっており、日本では最も実技（ヘルピング）を重視する資格内容なので、資格取得後にはキャリア・カウンセラーとしての活躍の道も開かれます。

先日、私はこの試験を受け、合格通知を受けとることができました。ニンカンや教育ファシリテーションでの学びを活かして、グループを対象としたキャリア開発のファシリテーションを行うために、この資格を役立てたいと思っています。コンテントは山盛りだし、プロセスを大切にできない自分を思い知らされる、険しい道のりの講座でしたが（笑）、決してムダにはならない学びが得られるので、関心のある方にはオススメです。

19期　糟谷芳江

放送大学　特別支援学校教諭免許取得講座　受講

「フィールドワーク」で出会った子供たちのことが忘れられず、卒業後、通信教育で小学校教諭の免許状を取得する勉強をしながら、非常勤講師として勤務。

結婚・出産を経て、再び同じ学校で働く中で、もっと子供たちへの理解を深め、よりよい指導をするため、さらに「特別支援学校教諭免許状」の二種を取得したいと考えるようになりました。助成を頂く以上、無駄に時間を掛けたくないと思い、１学期間で所定の８単位を何とか取得しました。今年度末には免許状を交付してもらえそうです。頂いた援助を、今度は子供たちに返していけたらと思います。

メリット先生関連のご報告

メリット先生ゆかりの愛知聖ルカ教会（尾張旭市）では、東京のメリット会から「教会に訪れる子どもたちや、近隣の方が憩えるような庭を作る費用を寄付したい」というご提案をいただき、ベンチ、テーブル、照明、樹木の植栽の工事をしました。
メリットガーデンとして多くの方に親しんでいただけるでしょう。
９月の逝去記念日に近い日程で、感謝の集いとバーベキューをしました。教会の小聖堂には、メリット先生の思い出コーナーがありますので、いつでもお気軽に訪ねてみてください。

（６期　諸岡千佐子）

プロデュースしませんか？

「ニンカン・ネット・サロン」始めます

来年度よりニンカン・ネットでは、卒業生に自主企画の場を提供する「ニンカン・ネット・サロン」を開催いたします。卒業生に向けて何か発信したい人、趣味の輪を広げたい人、卒業生と気楽におしゃべりしたい人は、どんどん応募して下さい。その第１回目として、今回はニンカン・ネットの企画で「茶話会」を計画しています。

南短近辺で2009年６月開催を目指しており、詳細は来年春のミニ講座と一緒に葉書でお知らせします。お茶とケーキ（参加費は500～1000円の予定）で楽しい時間を過ごしましょう！

プロデュース希望の方は是非ご連絡ください。
Staff5@ninkan-net.jpまで。

同期会報告

4期生同期会が、平成20年6月7日、金山のブラッスリーレ・ザンジュというフランス料理店で開催されました。出席者は29名でした。美味しい料理とお酒が入り、ご自分の仕事や近況、ご子息・お嬢さまの話などで盛り上がりました。どの方も学生時代の面影はありますが、人生の経験を積み重ね、それがすべて自信となり、学生時代よりも聡明な美しさと輝きをプラスして元気さに満ち溢れていました。私は最近、最愛の母を亡くしましたので今回はキャンセルしようと思いましたが、昔の友達は昔と同じように接してくださるはず、みんなに元気を貰おうと参加しました。友人の中には、父上を亡くされた方や離婚された方も有り、それぞれ苦労など伺い、また励ましをいただきました。二次会はカラオケ3時でした！余った費用は寄付され、次回の幹事も決まり楽しく閉会しました。

（４期　橋本なほみ）

☆４期同期会の残金をニンカン・ネットに寄付していただきました。ありがとうございました。

大庭先生を偲んで

大庭先生が逝かれて、もう10年が経ちました。本当に早いものです。この10月、大庭先生の奥様の愛子様とお話をする機会を得ました。大庭先生とメリット先生が御一緒されている写真をテーブルに置きながら、思い出話に花が咲きました。奥様からは、熱心なカトリックでいらした大庭先生のお人柄が偲ばれるエピソードを伺い、あっという間に時間が過ぎてしまいました。お話を伺うにつれ、大庭先生は南山短期大学人間関係科での時間を、本当に楽しみ、慈しんでおられたのだと、再び思いを強くした次第です。

先回ベタニアで開いた、「大庭先生・メリット先生ありがとう会」は、時間が足りず、メリット先生にまつわるお話も、宿題として持ち帰ってまとめることになってしまいました。今度は、もう少し時間をゆっくりとって「大庭先生ありがとう会」を開きたいと思っています。季節の良い

時期にベタニアで開催できれば、と思いますので、2009年の5月が良いか、と思っています。ニンカン・ネット等でお知らせしますので、大庭先生ファンやお世話になった方は、是非ご参加ください。また、大庭先生を直接ご存じない方もこの会に参加すると、人関の土台であり、その上に建つ灯台でもあった大庭先生の懐の深い、あたたかなお人柄に出会うことができると思いますよ♡

楽しい時を共に致しましょう。　（文責：グラバア俊子）

卒業生の活動紹介『五感カフェ』

わたしブレンドを楽しもう

オトナのたしなみ
五感ドリップ方式

わたしたちの「感受性」は、コーヒードリッパー！

日常で出会うさまざまな出来事やモノ、いろんな人たちとの関わりの中から、苦味や酸味、甘味…いろんな経験を抽出して、世界に一つだけの「わたしブレンド」を作り出します。

「五感カフェプロジェクト」は、そんな「わたしの感受性=ドリッパー」の活躍を観察したり、パワーアップさせたり、メンテナンスするためのヒントになるような、ちょっとユニークな女性向けの体験プログラムをお気に入りのカフェに立ち寄る感覚で気軽に、そしてリラックスしながら体験してもらえたら…という思いからワークショップを開催しています！

2008年度は、10回シリーズで月に１回開催しました。皆さんもぜひ気軽にお立ち寄りください！　お会いできるのを楽しみにしています。

五感カフェ体験記

会場は都心の一角。白を基調としたスペースの壁面にはアーティストの作品が並び、大小さまざまなテーブルにはテーブルクロスとかわいく積み上げたお菓子にコップに挿したお花。まさに「カフェ」と呼ぶにふさわしい空間でした。その日のテーマは「たしゃ」。佳子さんと奈央さんのお話に導かれ実習へ。心地よいＢＧＭの中クレヨンを使って40分間みんなで１つの絵を描きました。そのあとおいしいケーキでお茶をしながら「おしゃべりタイム」で実習についてのわかちあい。佳子さんたちのお話ののち、今日のふりかえり。ニンカンの授業と似ているけれどそこは「女子」。とってもやわらかな感じで進みます。出席カードのスタンプに至るまでこだわっているなぁと感じました。日常を離れ、かわいい空間の中で、いつもとちょっと違う視点でいろいろな事を感じ初対面の人とわかちあうのはとても刺激になりました。　（11期　清水みどり）

これまでの活動や最新情報はこちらをご覧ください。

ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/gokancafe

お申し込み、お問い合わせはこちらまで

gokancafe@yahoo.co.jp

（21期　松永佳子、南山大学教育ファシリテーション研修生　小山田奈央）

福 島 便 り

（6期　青木敦子　ニンカン・ネット　スタッフ）

みなさん、こんにちは。福島からお便りをさせていただきます。

夫の転勤のため名古屋を離れ、福島に住むようになって早７ヶ月が過ぎました。転勤になるまで東北地方には全く馴染みがありませんでしたが、この７ヶ月間、福島だけではなくお隣の宮城や山形などにも足を延ばしているうちに、この地方の豊かな自然や歴史を感じる町並み、おいしい食べ物、親しみやすい地元の人たちなどにすっかり魅せられています。今朝、聞きなれない鳥の鳴き声に空を見上げると、15羽ほどの白鳥の群れがくの字に並んで飛んでいきました。近くを流れる阿武隈川が白鳥の飛来地になっていて、冬にかけてたくさん集まってくるそうです。我が家からはどちらを眺めても美しい山々が見え、11月の今は、近くの山の色合いが日ごとに変わっていき、秋が深まっていくのがよくわかります。晴れた日には山全体が何色もの糸で織った絨毯のように見えます。ほんの少し車を走らせると道路の両側の視界が開け、田んぼや畑や民家がずっと遠くの山まで続いているのが見渡せ、何度見ても一瞬にしてどこかへ旅行に来ているような不思議な気分になります。福島に来て以来、季節の移り変わりを身近に感じ、毎日のように自然の美しさに圧倒され、とても贅沢な暮らしをしていると感じます。静かな自然から力をもらい、その度に都会に住む人たちにも見せてあげたいなぁと思います。

家の近所には大型のスーパーもありますが、懐かしい匂いのする八百屋さんや魚やさんがあり、おいしい食べ方などを聞くととても親切にあれこれと教えてくれます。地元の人が使う福島弁は何ともおっとりした響きがあり心地いいものです。おいしいものはたくさんありますが、私の最近のお気に入りはずんだ餅です。枝豆をすりつぶして作ったきれいな緑色のあんがお餅にかかっていて、甘過ぎずちょっと野菜くさいところが好きです。その他にもずんだせんべい、ずんだロール、ずんだシェイク、ずんだプリン、などなどずんだづくしで楽しいです。

ニンカンネット 新 スタッフ紹介

榊原葉子　（5期）

通称「はっぱ」です。
本を読むこと、文を書く事，ノートに落書きが好きです。
小学校と図書館で読み聞かせのボランティアをやっています。
ニンカン・ネットのお手伝いをすることになりました。
私にできることを楽しみながらやっていきたいと思います。
よろしくお願いします。

杉田純子　（16期）

16期生の杉田（旧姓：加々良）純子です。
社会に出てから人関のエッセンスを再確認しました。ネットの活動を通して皆さんと分かち合うことができたらいいな、と思っています。

ニンカン・ネット 掲示板

◆　講座情報　◆

◇ニンカン・ネット企画ミニ講座◇
星野先生：2009年５月16日（土）詳細は葉書でご案内します
＊10回シリーズの最終回です

◇グループファシリテーターの会Seeds主催◇
体験から学ぶ人間関係トレーニング
「かがやきのパティオ09・冬」
日　程：1月24日（土）2月7日（土）2月21日（土）3月7日（土）
時　間：午前10時から12時30分
場　所：日本聖公会中部教区センター　会議室
名古屋市昭和区明月町2-28-1
アクセス：地下鉄鶴舞線、桜通線「御器所」駅下車４番出口から徒歩約５分
参加費：１回　2000円　（資料代など）
定　員：15名（申込みが５名未満のときは開催されない場合があります）
申込締切：各回の10日前まで
申込先：http://gf-seeds.com
当サイト講座案内の申込フォームにてお申込みください。
問い合わせ：e-mail　gf_seeds@yahoo.co.jp
tel　080-1620-6757（10期　古田）

◆　スタッフ募集します　◆

ニンカン・ネットは、2001年10人程の卒業生によりスタートしましたが、現在は数名のスタッフで企画・運営しています。今後のさらなる活動充実のために、引き続きスタッフを募集します。

- 定例会：毎月第３土曜日　午前11時～午後１時
（８・12月は原則休み）
- 場　所：南山短期大学３番教室、21番教室
- 交通費：全額支給
- 活動内容：「ニンカン・ネット通信」作成発行、
ミニ講座運営、助成金管理

日時や場所は変更もありますので、事前にお問い合わせください。

◆　Thanks!　◆

挿絵は５期　榊原葉子さん、先生の似顔絵は16期　三井由紀子さんにかいていただきました。また、編集・印刷は尾頭橋印刷所にお願いしました。

◆　寄付のお願い　◆

「ニンカン・ネット」は皆さまの寄付で運営されています。常時、寄付を受け付けています。

《振込先》
三菱東京UFJ銀行　八事支店　普通　1715892
ニンカン・ネット　代表者　伊藤雅子
＊名前と期（学生番号）を必ずご記入下さい。

～ご寄付をいただいた方、ありがとうございました。～

◆　記事、イラスト募集します　◆

次号への投稿をお待ちしています。また、表紙イラストや挿絵等「何か表現してみたい！」と思われる方は、是非お送りください。
担当：11期　清水みどり　FAX（052）781－0890
E-mail：staff5@ninkan-net.jp（アドレス変わりました）

◆　編　集　後　記　◆

ニンカン・ネットのスタッフも様々な事情を抱えており、実働人数が半減し、このままで続けられるのか不安だった中、今年度も強力な新しいメンバーが増えました。おかげで講座も３回実施し、通信も発行にこぎつけました。今年もまた、二千数百人のニンカン卒業生がこの通信を手にしてくれていると思うと嬉しく、また来年も頑張ろうと思います。是非、同封のふりかえりをお送り下さい。お待ちしています。

（５期　林　幸子）

◆　ニンカン・ネット　問い合わせ　◆

ホームページ：http://www.ninkan-net.jp
E-mail：staff5@ninkan-net.jp
（アドレス変わりました）
FAX（052）836-6543（南翔会事務局）